

オンライン・シンポジウム

性暴力をめぐる理解の 「歪み」を問い直す

日本社会の性暴力をめぐる理解や解釈の「歪み」を明らかにし、性暴力という人権侵害への理解をより深めるためのシンポジウムを企画しました。性暴力根絶に向けた一歩にすべく、多くのみなさまの参加をお待ちしています。
※詳しい開催趣旨は裏面をご覧ください。

周藤由美子 ウィメンズカウンセリング京都

「性暴力被害者に関する神話を打ち破る」

牧野雅子 龍谷大学・犯罪学研究センター研究員

「性暴力はどのように理解、解釈されてきたのか」

2020. 11. 8 SUN

13:30 - 16:00

参加費

無料

開催方法

オンライン
ZOOM

申し込みフォーム | <https://forms.gle/ehkKDsZaedEXYzDx8> (QRコード)

※参加に必要なURL、ID、パスコードは11月5日(木)に送信します。

問い合わせ先 | ヒューライツ大阪 Tel: 06-6543-7003

共催 | 大阪府立大学 女性学研究センター／大阪市立大学 人権問題研究センター／ヒューライツ大阪(一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター)



性暴力をめぐる理解の 「歪み」を問い直す

開催趣旨

2019年は性暴力をめぐるいくつかの重要な判決が出た年でした。

3月に性的虐待や強かん事件に相次いで無罪判決が出されたことを契機に、全国で毎月11日に「未来を変えていくための、社会を変えていくための、性暴力を許さない声をあげるための」フラワーデモが行われるようになりました。12月には伊藤詩織さんの性暴力をめぐる民事裁判において、被害者勝訴の判決があり、「合意なき性交」に対する損害賠償が認められました。

しかしながら、いまだに被害者を責めるような発言がなくなったとは言えない状況です。性暴力は、身体や精神の自由という誰にとっても重要な基本的人権が、被害者に対しては十分に守られていないことを意味しますが、なぜそのことが十分に社会に理解されないのでしょうか。

コーディネーター：

古久保さくら（大阪市立大学人権問題研究センター）

内藤葉子（大阪府立大学人間社会システム科学研究科・女性学研究センター）

本シンポジウムでは、日本社会の「性暴力」をめぐる「理解」や「解釈」の「歪み」を複層的・多面的に明らかにすることを通じて、性暴力という人権侵害に対する理解をより深めていきたいと思えます。パネリストには、長年被害者支援を行ってこられ、被害者の心理に通じておられる周藤由美子さんと、性暴力行為をめぐる社会的認識のあり方について社会学の観点から研究をすすめてこられた牧野雅子さんを迎え、「被害者像」や「加害行為」をめぐる社会的な理解の「歪み」を問い直します。

刑法改正の議論もでている現在、このような議論を積み重ねていくことは、刑事裁判での無罪判決という結果をもたらしてしまうような社会の構造を変えていくためにも必要なことでしょう。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

セミナー参加に際してのお願い

- セミナーの録画や録音はお控えください。
- 配布資料の転送はしないでください。
- ミーティングIDとパスコードは、申込んだご本人のみのご利用をお願いします。

- 申込んだ方には、11月5日(木)に、申込時に記入いただいたアドレス宛にパスワードとURL、資料データ(PDF)を送信いたします。申込み時には、受信が可能なメールアドレスを記入してください。
- ZOOM視聴には、ZOOMアプリの事前ダウンロードを推奨します。まだ、設定がお済でない場合は、こちら(<https://zoom.us>)から

| 申し込みフォーム |
参加はこちら ➡

